

高花っ子



四日市市立高花平小学校 No.18
令和7年2月5日発行

～よいよい学校にするために -学習・その他-～

本校をよりよい学校にするために、保護者の皆様や子どもたちにアンケートを毎年実施し、その結果を分析して教育活動の充実に活用しています。

今年度2学期に実施した結果と学校で行った分析を、「学習・その他」「生活・学校づくり」の2回に分けて報告させていただきます。

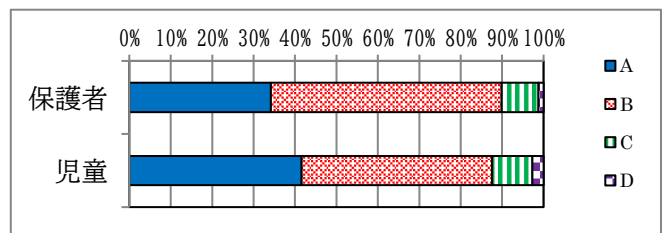
お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

A:そう思う B:どちらかといえば、そう思う C:どちらかといえば、そう思わない D:そう思わない

質問1 (保護者) 学校は、子どもたちがあきらめずに自ら問題を解決する力を育てている。

(児童) 私は(途中で)あきらめずに最後まで学習に取り組むことができた。

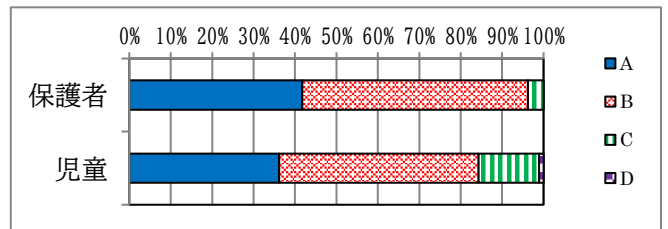
多くの子どもたちは前向きに学習に取り組むことができていると考えられます。一方で、否定的な評価をしている子どもたちも一定数います。最後までやり遂げる経験ができるよう、学校として、粘り強く支援をしていきたいと考えています。



質問2 (保護者) 学校は話し合ったり、発表したりする活動を行って子どもの考えを大切にしている。

(児童) 私は、授業で友だちの話をよく聴き、自分の考えを伝えることができた。

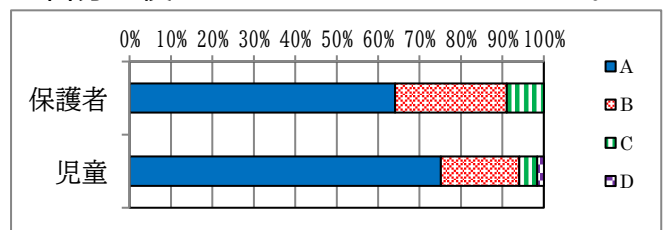
保護者からは高く評価していただいている一方で、児童の肯定的な評価は84%と大きく差が開いています。質問の内容に、「聞くこと」と「話すこと」の2つの観点が入っていることが、自己評価が厳しくなった一因と考えられます。子どもたちからは、「みんなの前で話すことが苦手だ。」という声も聞きます。全体での発表では緊張してしまう子どもたちがいる一方で、ペア学習やグループ学習では意欲的に自分の考えを話すことができる子どももいます。学校として、みんなの前で話したり聞いたりすることだけに評価の軸を置くのではなく、個々の適性に応じた形で、友だちの話を聞いたり、自分の考えを伝えたりする力を養っていきます。



質問3 (保護者) 学校は、子どもたちがタブレットパソコンを使えるように積極的に学習に取り入れている。

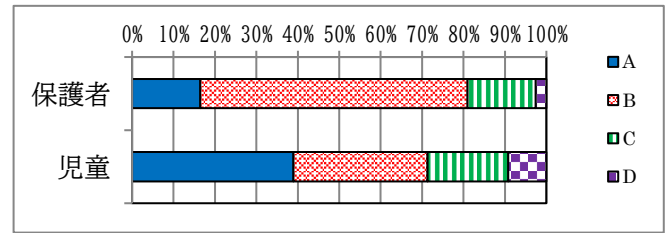
(児童) 私は、授業でタブレットパソコンを自分で使うことができるようになった。

日頃から、タブレットパソコンの授業での活用方法を教員間で情報共有をしてきたことが、大きな要因と考えられます。また、家庭に持ち帰った際に、ご家庭でお力添えいただいていることも、子どもたちが「使うことができる」と評価できた一因であると思います。これからの時代に欠かせないタブレットパソコンを、子どもたちがさらに使いこなすことができるよう、教職員の研修をさらに進めたり、子どもたちの支援を行ったりしていきます。



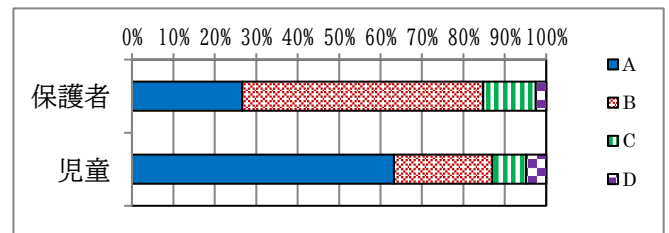
質問4 (保護者) 保護者として、子どもが自ら学ぶ力がつけられるように、家庭で支援している。
 (児童) 私は宿題やプラス1学習、読書を自分からすすんですることができた。

家庭での学習に関して、30%近くの児童が否定的な評価をしているということになります。保護者の否定的な評価は20%に満たないことから、評価に差があることがわかります。子どもたちからは、「放課後の習い事等で忙しいから、家庭学習に十分にに取り組む時間がない。」という声も聞かれます。また「自分からすすんで」という点で、子どもたちが厳しく自己評価をした点も要因と考えられます。自ら学ぶことは、これからの社会で欠かすことができない大切な能力となります。学校でも引き続き、子どもたちの自ら学ぶ力が身に着くように支援していきます。



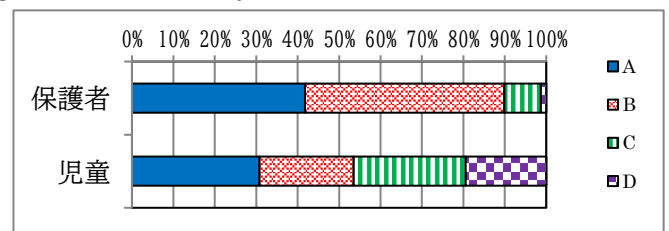
質問6 (保護者) 学校は、体育や休み時間の遊び等を通して、児童の体力の向上や健康増進に努めている。
 (児童) 私は、体育の授業や休み時間にすすんで運動することができた。

昨年度と比べると、1・2学期は運動場が使えず、十分に体を動かせていないと感じる児童が増え、数値が低くなったと考えられます。そんな中で、休み時間に体育館を各学年で割り振って使用できるようにしたり、授業における子どもたちの活動時間を確保するために全学年で実施する種目を統一したりしました。また、体育保健委員会による体力テストの体験会や5・6年生によるなわとび技披露会など体力向上に向けた取組を可能な範囲で実施しました。今後は子どもの体力向上に向け、外遊びの機会を確保し、子どもたちが運動の楽しさを味わえるよう取組を進めます。



質問7 (保護者) 学校は、図書の貸し出しや電子図書館等を活用して読書活動の推進・充実に努めている。
 (児童) 私は、すすんでたくさんの本を読むことができた。

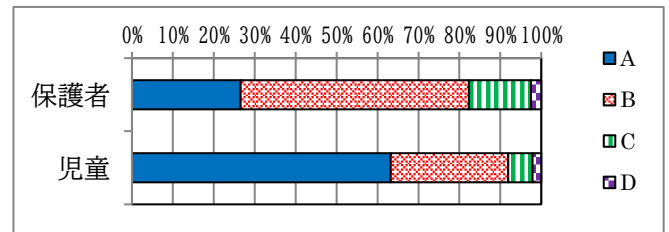
高学年は休み時間に委員会活動等もあり、メディアルームで本を読む時間があまり取れず、読書に関するイベントへの参加も少ない等の現状があります。今年度は、6月と2月にそれぞれ2週間ずつ図書館まつりを企画したり、学期ごとにクラスが多読賞を表彰したり、それぞれの先生が自分の好きな本を紹介したりと読書推進に向けて取り組んできました。引き続き、授業でメディアルームの本を使って学習したり、四日市市の電子図書館を積極的に活用したりして、子どもたちが読書に親しみやすい環境を整えていきます。



質問14 (保護者) 子どもたちは、夢や目標をもって行動することができている。

質問12 (児童) 私は、夢や目標をもって、できるようになるために努力している。

保護者の肯定的な回答が82.3%となりました。学校では、「ドリームマップ」の作成等、それぞれの成長に応じて自分の将来を考える機会を設けられました。また子どもたちが将来を考えるときに指標となる方々との出会いもたくさん行ってきました。地域のために活躍されている方と出会ったり、子ども園や中学生との交流の中で自分自身を見つめ直す機会を持ったり、将来のことを少しでも想像しやすくなるような取組を進めています。また、学期末に自分のことを振り返り「キャリアパスポート」に記録する時間を設け、成長の記録を行っています。



本校の学校教育ビジョンで重点項目に位置づけているキャリア教育の更なる取組を、各学年に応じた形で進めていきます。